

社団法人私立大学情報教育協会  
平成 21 年度第 4 回 CCC コミュニケーション関係学グループ運営委員会議事

I. 日 時： 平成 21 年 11 月 7 日 午後 0 時 45 分～午後 2 時

II. 場 所： 社団法人私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 出席者： 阿部委員、北根委員  
事務局：井端事務局長、山野上

IV. 検討事項：

1. サイバーFD 研究員の意見を反映させた学士力の確定について

到達目標 1 について

ICT についてのコメント、序列、理解できるという表現、レベル、理解の重み等について検討し、測定方法についてはレポートを含める。調査分析は入れないことにした。

到達目標 2 について

ペアワーク、ロープレ、スピーチに含まれている。スキルを獲得しを活かす。

応じた…を取り入れる。学生が互いの…を取り入れる。

到達目標 3 について

事象という表現はわかりにくいので問題・事象に変えてはどうか。

は情報発信を中心に考えており、だからメディア制作に、というのではないか。もっとプラクティカルなものを強調してはどうかということか。

自由度をたかめるには、このままのほうがよい。1 は理論、3 は派生。2 は独立したスキルのように思える。

普通の大学は 1, 2 で十分。3 はコミュニケーション学。これから先に派生する。そこをやろうとすると仔細にわたってしまう。

分析でとまらずに、可能性と限界をさぐることをいれてはどうか

事象を分析→理論的に説明できるに順番変える。応用できる みたいなのを入れたい。

結果をさまざまな状況で活用することができ等の表現を検討。

「コミュニケーションの諸問題を分析した結果を理論的に考察し、様々な状況で応用することができる」に改定し、到達度を 簡条書きにする等の改定を行ない、以下の最終案とした。

## コミュニケーション関係学の情報教育

### 到達目標1

コミュニケーションのプロセスにおける情報通信技術の役割を理解している。

#### 到達度

- ① 情報検索とソフトウェア(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)などの機能や特徴を理解している。
- ② 情報通信技術を用いたコミュニケーションの特徴を知っている。
- ③ 情報の信頼性を識別でき、情報の引用に関する倫理を身に付けている。

#### 教育内容・教育方法

- ①は、情報通信技術の基礎的知識とコミュニケーション学とを関連付けて確認させる。
- ②は、演習・実習形式でプレゼンテーションなどを通じて表現方法の適切性を体験させる
- ③は、講義などにより、信頼性と倫理について、具体的事例を通じて理解させる

#### 到達度確認の測定方法

- ①は、レポート、小テストなどで確認する。
- ②は、プレゼンテーションにより確認する。
- ③は、レポートなどで確認する。

### 到達目標2

コミュニケーションのメディアとして情報通信技術を活用できる。

#### 到達度

- ① 情報通信技術を用いて情報の検索、収集、整理ができる。
- ② コミュニケーションの目的に沿って適切な情報通信技術を選択し、表現できる。
- ③ 情報通信技術を利用して複数の相手と意見交換するための場を設定できる。

#### 教育内容・教育方法

- ① は、演習・実習などにより、課題を与えてWeb検索や資料検索等によって得られたデータの収集、整理を体験させる。
- ② は、情報通信技術を用いてレポートの作成やプレゼンテーションを実施させる。
- ③ は、実習などで多様なメディアを使い分けて場を設定し、適切なコミュニケーションを実践させる。

#### 到達度確認の測定方法

- ①から③は、レポート、プレゼンテーションなどにより確認する。